
9/20 00:00 非通知 1件

エイノジ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

9 / 20 00 : 00 非通知 1 件

【NZコード】

N7913Y

【作者名】

エイノジ

【あらすじ】

免許712 × 大鳥 wkb

誕生日ネタ

いくら仕事とはいって、日付が変わるなんてありえないと思つ
だけど、そう文句も言つてらんないし、結局は重たい体をまた重た
くしてしまつ

それでも、3時間ぶりに開いた携帯の画面を見て嬉しくて泣きそり
になつた

0	0	:	0	0	1	件
0	0	:	0	2	1	件
0	0	:	0	5	1	件
0	0	:	1	2	1	件
0	0	:	2	5	1	件
0	0	:	4	0	1	件
0	1	:	0	0	1	件
0	1	:	3	0	1	件

計8件の電話

内、きつかり5の倍数になつてこるのは一寧な藤原さん
(違うのはサトミシと原口わん)

今日じやなかつたなら、直ぐに掛け直すけど、『めんなさい。ちょ
つともうそんな気力ないです

事務所が用意してくれたタクシーに乗つて帰路につく

)

アラームが鳴り響いたので携帯に手を伸ばし、画面を覗かとモヤシ

と操作

「あ…」

05：30 1件

流石にこれは掛け返せなきやいけないなと黙つたといひでまた携帯
が鳴る

『着信中 藤原一裕』

「あ、わわ…」

『もしもし』

そつと受話部分に耳を当てるど、安定のある低音イケメンボイス
「もしもし…」

『はあ、良かつたー。やつと繋がつた』

『あのつ、すいません』

『ああ、ええよ。いつか眠りの邪魔したんけやつ…』

『違、くつ…』

『何?』

藤原さんに見えるはずがないのに、正座をして背筋を伸ばす

「気づいてたのこ、掛け直さなかつた…んです…すいません」

『……あ、…誰かと居つた?』

機械を通して聞こえる藤原さんの声には、怒りの感情ではなく
素直な疑問と、どちらかと云つて悲しいことについて感情

「そんなことないです!仕事が長引いて…」

「言つてから気が付いた。アチャーッって思った

いかにも訳し言つてました

『若林』

「いや、これは本当にことでした、その後はすぐ戻りましたし」

『若林』

「だから本当」

『今日になつてから誰かと喋つた?』

「へ」

怒られると思った

怒鳴り付けられると思つてた

なのに藤原さんの優しい声が、俺に優しく問い合わせてくるので、

「春日と、仕事で一緒にいたウチの事務所の人と…」

誠心誠意、本当のことを見偽りなく話した

『…そつか』

「どうしたんですか?」

『33歳初若林が俺との会話じゃないことが悔しくて悲しくて…』

『すじません…』

誕生日、なんか…まさかとは思つたけど知つてくれたんだ

『俺、ほんまはそういうの面倒くさいタイプやねんで?』

『本当にすじません』

『何で覚えてたと思つ?』

何で?確かに、言つた覚えはない

だって俺は藤原さんの誕生日知らないし…

「何で、ですか?」

『俺と同じ誕生日やから』

「え、え…」

てことは藤原さんも誕生日9月20日?

「ええ――――言つてくださいよーあ、俺何も用意してない…

じゃなくて、俺本当に酷いこと…

「

自分の誕生日だからと思つてたけど、俺の誕生日だから藤原さんは祝つてくれようとしたんだろうとでもそりじやなくて、本当は俺に祝つて貰いたかったんじゃないかな…

『ええつて、な?』

「いや、良くないです…」

『じゃあどうする?』

『どうするつたつて、お祝いするに決まつてるじゃないか

「今日、仕事終わつたら家行きます…」

俺にしては頑張つたよ!何これ恥ずかしい…顔熱い!!!!

『えー』

「だめ、ですか?」

『誕生日は今日やねんで?また昨日みたいに天辺越えたら終わらじやん』

「…へぐう

今日も日付を越える可能性は十分に有り得る

『今』

今?

『今から会おつか

「…はー』

あわわ、俺返事しちゃつたよ

『仕事は?いける?』

「ちよつとだけ、なら…』

『ここで若林の家のインター ホン鳴つたりロマンチックじゃない?..』

『え…』

もしかして、と思って立ち上がり

玄関の覗き穴から藤原さんの姿を探す

『ふふ、探してる?』

「…? 何なに? 何ですか?」

『30分待つって、バイクで飛ばすわ』

「…!』

きゅーーーん

バイクに跨がって颯爽と俺に会いに来る藤原さんを想像して胸が詰
まつた

『じゃあ一回切るわ、じゃ…また』

また、また。また…

まだまだ今日は終わらない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7913y/>

9/20 00:00 非通知 1件

2011年11月23日16時50分発行